

事務局ニュース

《事務局業務日・時間》月曜日～金曜日(土日・祭日休業)
午前 9:30～午後 3:30

No.290 2022年1月1日
NPO 法人富山県腎友会事務局
〒931-8443 富山市下飯野 70-4
TEL:076-407-5085
FAX:076-407-5086
発行責任者 池田 充
編 集 坂田 祐美
定価 50 円(会費に含む)

新年のごあいさつ

NPO 法人富山県腎友会
会長 池田 充

新年あけましておめでとうございます。

昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染拡大に伴い、富山県腎友会 50 周年記念大会をはじめ予定していた行事やセミナー等、その大半を中止せざるを得ない状況となりました。しかし、私たちの生活に密接に関係している県への要望等は、活動が制限される中でも休むことなく継続してまいりました。そのような中、昨年 10 月 31 日(日)に鳥居薬品共催の「透析患者のための勉強会」、そして 11 月 13 日(土)には県委託事業「糖尿病講演会」を会場+リモートというハイブリッド形式で開催することができ、ようやく活動再開の兆しが見えてまいりました。

全国的には大規模地震をはじめ、集中豪雨による水害や雪害等、いつ何処で何が起きてもおかしくない状況となっています。ひとたび災害が起き、ライフラインである電気、ガス、水道が止まってしまうと、透析治療そのものが危機的状況となります。さらに道路が遮断されれば通院もままならない状況となります。災害が起きても透析治療が維持されるよう、今後も引き続き訴えてまいります。

また患者の高齢化に伴い、通院送迎や終の棲家確保に関する問題は、今後さらに大きな課題となっていきます。この問題を解決するには、医療機関や行政だけでなく、患者やその家族の積極的な参加が必要となります。国は自助努力を求めています。患者やその家族だけではとても解決できることではありません。国をはじめとする行政を動かすには、一人でも多くの声と共に連携して活動する力が必要です。高齢になったから活動できなくなったのではなく、患者会に名前を残すことだけでも活動の大きな力となります。「命と生活を守る」活動に一人でも多くの患者やその家族のご理解とご協力をお願いして、私の新年のあいさつとさせていただきます。



国会請願署名・募金について

毎年会員の皆様にご協力いただいている署名ならびに募金は、腎臓病患者の医療と生活を守るためにとても大切な活動です。

請願署名をまだ提出されていない方は、1 月中でも間に合いますのでよろしくお願ひします。



大雪による災害に備えて

昨年 1 月のような大雪による災害は今年も十分考えられますので、車運転中のトラブル(スタックなど)や停電・断水・流通の停止などへの備えだけでなく、日頃から水分、塩分、カリウムなどの食事管理にも気をつけましょう。

【参考】富山防災 WEB

<http://www.bousai.pref.toyama.jp>

富山県の「降雪予測情報」や「最新の交通情報」、「最新の気象情報」などを知ることができます。



2022年度診療報酬改定をめぐる動き

～透析中の運動療法の評価について議論～

2022年度の診療報酬改定に向け、本格的な議論が進んでいます。

昨年11月17日に開催された中央社会保険医療協議会(中医協)では、透析中に運動療法を実施した場合の診療報酬評価に関する議論が行われました。

透析患者が運動することで、「血圧のコントロールが可能になれば降圧剤が減る」「低栄養状態の改善に伴い貧血が改善される」「筋肉が増えることで透析の効率も良くなり、死亡率が低くなる」など様々な効果があることがわかっています。

中医協では、「腎臓リハビリテーションガイドライン」(日本腎臓リハビリテーション学会)が示す透析患者に対する透析中の具体的な運動療法の内容をもとに議論が進められました。

透析患者の死亡率の低下やQOL向上につながる運動療法が、今度どのように評価・検討されるのか今後の動きに目が離せません。

例年通りの日程であれば、昨年末までに診療報酬全体の改定率が示され、1月中旬には具体的な改定項目および点数が明らかになる予定です。

【参考】 <https://www.mhlw.go.jp/content/12404000/000856135.pdf>

診療報酬とは

保険診療が行われたときに、医療保険から医療機関へ支払われる治療費のことをいいます。保険で受けられる医療範囲や価格が細かく定められ、例えば透析の回数や時間、検査項目やその回数、湿布薬の枚数などはこの診療報酬によってその範囲が決められます。

厚労省が2019年社会保障に関する意識調査結果を公表

～社会保障負担増はやむを得ない(3割)～

今後の社会保障の給付と負担について、厚生労働省が行った「2019年社会保障に関する意識調査～制度に関する情報の内容、健康づくり、給付と負担の水準～」によると、「給付水準を維持し、負担が増えるのはやむを得ない」とする人が3割に上ることが明らかになりました。

今後充実すべき社会保障については、すべての年齢階級で「老後の所得保障(年金)」が最も多く、次いで多いのは、39歳以下では「子供・子育て支援」、40歳以上では「老人医療や介護」となりました。

当調査は、社会保障制度への関心や情報を得る手段、給付と負担の水準などについての意識を調べるもので、今後の社会保障制度改革を含めた厚生労働行政施策の企画・立案のための基礎資料を得ることを目的としています。



今後の予定

- 全腎協理事会(WEB) 2/6
 - 第51回理事会 2/13 サンシップ
- ※今後の状況により中止又は延期する場合があります



おくやみ

- 山崎 紀善 殿 富山労災病院 享年81歳
 - 高松 正一 殿 黒部市民病院 享年87歳
 - 角川 礼子 殿 氷見市民病院 享年85歳
 - 北川 与志昭 殿 泉が丘内科クリニック 享年87歳
 - 石川 義男 殿 真生会富山病院 享年74歳
- 謹んでご冥福をお祈り致します